巻頭言

高市早苗讃歌

会長　山崎　學

令和7年10月，高市政権が誕生してから日本の節目が大きく変わり始めた。振り返れば，先のG7サミットにおいて，国際舞台にふさわしくない立ち振る舞いや，他国首脳との交流に消極的な姿勢を露呈した前総理の姿は，多くの国民に深い失望と焦燥感を与えた。あの時の悔しさと危機感は，今なお多くの国民の記憶に焼き付いている。先の衆議院選挙では，高市早苗総理の圧倒的な存在感によって辛うじて窮地を乗り切った身でありながら，今なお負け惜しみのような身勝手な主張を垂れ流し続ける姿勢には，呆れ果てるばかりである。その恩を仇で返すような不誠実な言動を見るにつけ，あまりの理不尽さに激しい憤りを覚えざるを得ない。

令和7年10月21日，女性初の内閣総理大臣に就任し，国民の期待に応えて賃金引上げ・物価高騰対策に対して補正予算を組んで対応したのを皮切りに，自由民主党悲願だった憲法改正，皇位継承権問題，国旗損壊罪・スパイ防止法の制定に向けた取組，武器輸出三原則の緩和と菅・岸田・石破内閣では考えられなかった政策を矢継ぎ早に進めている。こうした動きに対して媚中の評論家・オールドメディアは中国発の軍国主義国家復活論を受け売りして反高市報道を繰り広げているが，冗談じゃない。日本の国土・領空・領海・人命・財産を守るのは日本国に住む国民のために政府に課された使命なのだよ。尖閣諸島周辺海域に毎日出没して，隙あらば日本の領土を虎視眈々と狙っている中国が相手だよ。一党独裁を維持するために中華思想で凝り固まった中国共産党にとって日本は東夷（東の小人）の存在なのだよ。今まさに戦後，日米安保条約という米国の傘の下で守られてきた日本の防衛，国益を真剣に考える時期になっていると思う。

米国とイランの間で始まった紛争を契機としてイランはホルムズ海峡封鎖という禁じ手を発動して全世界の資源流通をかく乱しているが，イランの事実上の実権を握っている革命防衛隊が，2003年に大量破壊兵器隠匿を理由にイラク侵攻してサダム・フセイン大統領を殺害し，アラブ民族主義を掲げるバアス党とイラク国軍，共和国防衛隊を解体した米国流の過去の歴史を学んでおり，ここで降伏したらかつてのイラクの共和国防衛隊と同じ運命をたどることの危惧を抱いていることが問題を複雑にしているように思える。米国による荒療治の結果でイラク国内は旧政権勢力，スンニ派民兵組織，シーア派民兵組織による内戦状態が続き，旧政権勢力を含めた民兵組織の一部が資金潤沢なアルカイダに参加して，国際緊張を高めた歴史がある。一神教であるイスラム原理主義と多宗教を包括する自由主義社会の軋轢は宗教上の解釈から始まっており，お互いの存在を認め合って折り合いをつけていくしか解決策はみつからないような気がする。

こうした激動の情勢下にあって，高市総理は予測困難なトランプ大統領との間にいち早く強固な信頼関係を築き，安倍晋三元総理がやり残した遺志を着実に形にしつつある。安倍晋三総理が提唱した「日米豪印戦略対話（QUAD）」を進め，戦略的同盟国に対して国産の新型護衛艦，潜水艦，ミサイルを輸出する準備を始めた。就任する前に危惧されていた外交場面においてもトランプ大統領の懐に飛び込んだ高市総理に対してEUをはじめとした各国首脳が自ら日本を訪れて国際平和の礎をつくるキーパーソンとしての役割を求めているのに，日本国内の一部で未だに「高市潰し」を画策するような論調がみられるのは，腹立たしいかぎりである。令和８年５月21日に自民党議員の347名（衆参自民党議員の８割）が参集して「国力研究会」が発足し，高市ビジョンを政策・外交にわたり実現していくことが確認された。安倍晋三元総理が残した遺訓が着々と実現していく様をきちんと見届けたいと思う。